

# DI 委員会トピックス

## タイトル

### 新剤型・新用量パクリタキセル（アブラキサ）について

#### 概要

アブラキサは、添加物としてポリオキシエチレンヒマシ油及び無水エタノールを使用していないパクリタキセル注射剤です。人血清アルブミンにパクリタキセルを結合させたナノ粒子製剤であり、生理食塩液で用事懸濁して使用する凍結乾燥注射剤です。この薬剤は、従来のパクリタキセルに必要な前投薬が必須でなく、点滴時間が 30 分に短縮されていることが特徴です。

#### ○効能・効果

乳癌（乳癌以外の癌腫における有効性及び安全性は確立していない。）

#### ○用法・用量

パクリタキセルとして、1 日 1 回 260mg/m<sup>2</sup>（体表面積）を 30 分かけて点滴静注し、少なくとも 20 日間休薬する。これを 1 コースとして、投与を繰り返す。（適宜減量）

#### ○副作用

・末梢神経障害：他のパクリタキセル製剤よりパクリタキセルの投与量が多く、分布特性が異なるため、症状の程度及び発現頻度が高くなる。

・脳神経麻痺：顔面神経麻痺、声帯麻痺等の脳神経麻痺が報告されている。

#### ○投与時

・インラインフィルターは使用しない。

・他の薬剤との配合又は同じ静注ラインでの同時注入はしない。

#### ○重要な基本的注意

添加物としてヒト血清由来成分（人血清アルブミン）を使用しているため、特定生物由来製品に該当。（使用記録の作成と 20 年間の保存が義務）

#### ■アブラキサと従来のパクリタキセル製剤との比較■

	効能・効果	用法・用量（抜粋）	投与時の注意
アブラキサ	乳癌	260mg/m <sup>2</sup> （点滴時間 30 分） 3 週間隔投与法	本剤投与時には、インラインフィルターは使用しない。
従来のパクリタキセル	卵巣癌、非小細胞肺癌、乳癌、胃癌、子宮体癌	A 法：210mg/m <sup>2</sup> （点滴時間 3 時間） 3 週間隔投与法 B 法：100mg/m <sup>2</sup> （点滴時間 1 時間） 1 週間隔投与法（毎週投与法）	0.22 ミクロン以下のメンブランフィルターを用いたインラインフィルターを通して投与する。

参考

大鵬薬品工業株式会社ホームページ <http://www.taiho.co.jp/>

アブラキサン点滴静注用 100mg インタビューフォーム